

地域リハOT 便り vol.14

令和 5年

9 月

地域リハビリテーション部では、地域に貢献に向け、行政や各種団体からの依頼（講師や委員など）に対応できるよう、各市町に担当部員を配置し、連絡、調整を行っています。

地域リハOT便りを通じて、地域で活躍する各市町の作業療法士の取り組みを紹介します。

今回は、多気町での取り組みについて、紹介します。

多気町での取り組み（地域リハ部・多気町担当：澤村沙月）

多気町では、行政との連携を密にとりながら、多気町内の介護老人保健施設としてできることはないかと常に話し合いを重ねながら交流を図っています。今回、介護予防普及啓発事業の一環として作業療法士へ依頼があり、「認知症について」の講話と「物づくりで認知症予防教室」の2つのテーマで講師をしました。

今回の企画には60代～80代の15名の一般の高齢者が参加されました。「認知症について」の講話では、認知症の症状や認知症を予防する為の秘訣について具体例を挙げ、楽しくお話をさせていただきました。

「物づくりで認知症予防教室」では、実際に消臭剤作りの“作業”をして頂き、手先を動かしながら、参加者同士で交流し、素敵な消臭剤を作っていました。



こういった“作業”を通して町内の高齢者間で楽しく会話をしながら、作業をする場を提供することができたのではないかと感じています。参加した方々からは「またこのような機会を作ってほしい」「作品作りが楽しかった」といった声をいただきました。こういった意見を大切にしながら、日々の臨床業務や地域との関わりへと繋げていきたいと思えます。

多気町には療法士が在籍している施設が2つしかなく、“作業療法”を知っていただく良い機会になったのではないかと思います。作業療法士が地域への取り組みに関わっていけるように、また町内だけではなく県内の地域の方々に“作業療法”を知っていただけるように今後も地域リハ部の活動に尽力していきたいと思えます。